

1. 学会・誌上発表

(1) 福井県における環境情報の提供

山田克則

第10回国立環境研究所環境情報ネットワーク研究会 (1998年、つくば市)

福井県では、平成3年度に策定された「ふるさと福井環境プラン」に基づき、平成4年度にパソコン通信による環境情報提供システム「みどりネット」を整備し、平成7年度からインターネットホームページによる情報提供も開始した。

ホームページの主な内容は ①お知らせ、環境白書、関連情報（環境基本条例・環境基本計画等） ②環境保全活動推進情報（エコ・ページ） ③関連サーバへのリンク ④環境科学センター紹介（業務内容、調査研究一覧等） ⑤本日の大気汚染状況 である。

(2) 環境保全活動ガイドブック「Taking Action」日本語版の作成

山田克則

第12回全国公害研協議会東海・近畿・北陸支部研究会 (1998、大津市)

環境への負荷の少ない持続的発展が可能な社会の構築に向けて、人々の自主的、積極的行動を促すために、環境に関する情報をわかりやすく提供することが求められている。

福井県環境科学センターでは1995年度よりインターネットを活用した環境情報の収集、提供を行っており、今回、海外の情報をわかりやすく加工して提供する取組みのひとつとして、インターネット上で提供されている「Taking Action」（国連環境計画発行）の日本語版ホームページを作成した。

(3) 福井県内河川の農業汚染実態調査結果について

次田啓二、坊 栄二、山口慎一

第12回全国公害研協議会東海・近畿・北陸支部研究会 (1998、大津市)

公共用水域等における水質汚濁に係る基準等が示されている43農薬のうち36項目の農薬について、平成6年度から3年間、河川および湖沼の水質常時監視地点38地点で汚染実態調査を実施した。

その結果では、年間平均値で評価して、問題となる濃度レベルにある農薬は認められなかったものの、県内で使用量の多いモリネートについては、最大値では毎年水質評価指針値を超える地点が認められることなどについて報告した。また、農薬商品の流通量から県内で使用される農薬量を推計し、農薬の使用量と検出状況についても併せて報告した。

(4) 鞭毛虫類のアオコ捕食特性（塩素イオン濃度別捕食特性）

松崎雅之、白崎健一

第24回環境保全・公害防止研究発表会

(1997、那覇市)

三方湖におけるアオコ分解除去実証化への基礎的知見を得るため、*Microcystis* 属の分散株を有効に利用し増殖する鞭毛虫類の一種 *Monas guttula* の塩素イオン濃度耐性について検討した。その結果、

① *M. guttula* は塩素イオン濃度を2,500mg/lまでに調製したM11培地において *Microcystis aeruginosa* 分散株を有効に捕食分解可能なことが確認された。

② 三方湖の塩素イオン濃度は最高約2,000mg/lにまでしか達しないため、*Microcystis* 属アオコに対する *M. guttula* を用いた分解除去法の有効性が示唆された。

(5) ナホトカ号重油流出事故とWWWサーバー

山田克則

第5回情報ネットワーク講演会 (1997、神戸市)

「環境技術」1997年7月 (Vol.26 No.7)

1997年1月の事故発生後、国内各地のインターネットWWWサーバーを通じて数多くの油流出関連情報が発信された。

福井県環境科学センターのサーバーにおいても1月10日に重油流出事故のページを設け、油回収作業の写真や事故の経過を示すとともに、以後継続的に環境調査の結果や水鳥保護状況、油漂着状況等を情報発信した。

海外のWWWサーバーからは、1989年にアラスカで発生したバルディーズ号の油流出事故等の関連情報を収集することができ、WWWサーバーによる情報発信の有用性が再認識された。

2. 所内研究発表会

環境科学センター・衛生研究所・原子力環境監視センター・食肉衛生検査所との第26回合同研究発表会

1. 日時 平成10年2月18日(木)

2. 場所 環境科学センター会議室

発表演題

①鞭毛虫類のアオコ捕食特性（塩素イオン濃度別捕食特性）
研究員 松崎雅之

②福井県内河川の農業汚染実態調査結果について
主任研究員 次田啓二

③梅雨期および冬期における酸性沈着について
主任研究員 青山善幸

④リモートセンシングによる環境解析について
研究員 吉川昌範

⑤生活排水対策の効果測定調査結果について
研究員 石倉誠司

